

# 共生

奈良県生協連

2026年1月

NO.139



◀第35回奈良県生協大会  
IYC2025 協同組合の強み  
～笑顔あふれる地域共生社会づくり～



キャリア・デザイン・ゼミナール▶  
奈良県生協連寄付講座  
五感で学ぶ「協同組合」in 奈良

## もくじ

- |                                   |                                     |
|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 新年のご挨拶 森 宏之奈良県生協連会長… 1            | ピースアクションinなら2025 ②被爆の継承と未来へのつながり… 6 |
| 新年のご挨拶 山下 真奈良県知事…………… 2           | 関西消費者団体連絡懇談会の定期懇談会… 7               |
| 第35回奈良県生協大会 IYC2025 協同組合の強み… 3    | 2025年能登被災地支援サロン活動…………… 8            |
| 奈良女子大学 キャリア・デザイン・ゼミナール… 4         | 生協・行政協議会 / 防災…………… 9                |
| ピースアクションinなら2025 ①(きょうされん共同企画)… 5 | おじゃましました ～もったいない NARAの巻… 10         |

## 2026年、奈良県生協連に結集する 市民の力を発揮して、力強く成長し 前進する一年にいたしましょう

奈良県生活協同組合連合会 会長 森 宏之



奈良県生協連の会員及び組合員のみなさん、新年おめでとうございます。昨年は石川県能登半島地震被災地への継続支援活動、若者応援プロジェクトのフードパントリー実施、きょうされん第48回全国大会inなら特別企画として「ピースアクションinなら2025」日本被団協事務局長の濱住治郎さんの基調講演、「第35回奈良県生協大会」での元日本協同組合学会会長の田中夏子さん講演、大学寄付講座「キャリア・デザイン・ゼミナール」の実現をはじめとした国際協同組合年の諸企画に取り組むなど多忙な一年となりました。本当にお疲れ様でした。その中でも奈良県生協連の様々な活動に対して、県下の諸団体、各方面から大きなご協力とご支援もいただきました。誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

気候変動による世界各地での異常気象災害の発生、またロシアによるウクライナ侵略の継続、パレスチナ・ガザ地区での混乱の深刻化など、平和の危機が到来し、人類の未来にとって暗いニュースが多かった一年であり、世界は破壊と分断、争奪と混乱の新たな時代に入っています。今こそ世界中のすべての人々が平和と豊かさを享受できるような新しい世の中に変えるために、市民の行動が重要な局面になっているといえましょう。

さて、奈良県生協連は9つの会員生協で県下40万人の組合員を組織する消費者団体として

培ってきた市民の力を結集し、食とくらし、平和、環境、福祉、防災の5つの分野で地域社会の一員としての行動を積み重ねています。また、子どもや高齢者への生活支援、地域環境保全や再生可能エネルギーの普及や健康省エネ住宅のリフォーム支援制度構築、地域での障がい者を含めて雇用の創出などの社会問題解決につながる活動に力を注いでいます。そして、活動の指針として、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の諸課題に対応した取り組みを推進しています。

今年2026年は、これらの取り組みを生かして、たすけあい協同の心を大切に、「誰一人も取り残さない」安心してらせる地域づくりをすすめる課題に果敢に挑戦する年にしたいと考えます。また、農業協同組合、森林組合、労働者協同組合など協同組合同士の交流連携を基礎にして県行政、並びに市町村の生活担当分野の皆様、奈良県社会福祉協議会、奈良県地域婦人団体連絡協議会をはじめとした各分野の団体の皆様とのさらなる連帯と連携強化を模索しながら、SDGsの諸課題に真剣に取り組んでまいります。

今年の干支は「丙午（ひのえうま）」です。力強く成長し前進する年です。スピード感をもち事業の繁栄をもって地域共生社会づくりを飛躍させる年にしましょう。協同組合の活動を奈良県隅々まで広げて参りましょう。

奈良県生活協同組合連合会並びに会員生協の皆さまに、  
令和8年の初春のお慶びを申し上げます。  
奈良の可能性を拓く一年に

奈良県知事 山下 真



明けましておめでとうございます。昨年は、大阪・関西万博の成功や奈良県出身の高市総理の誕生など、本県にとっては明るい話題が多かったように思います。一方で、非常に暑く長い夏など地球温暖化の問題やウクライナでの戦争など深刻な問題も継続しています。

### 種から芽が出始めた一年

奈良県に目を転じますと、私が知事就任後、県の発展に向けて蒔いてきた様々な種が少しだけ芽を出し始めました。教育や子育て支援の分野で様々な政策に取り組んできた効果もあったのか、令和6年の奈良県の合計特殊出生率は1.19で前年比0.02の減少となりましたが、この減少幅は全国で3番目に少なく、同出生率の全国順位も35位から30位へと上昇しました。

不足する保育士を増やすための民間の園への給与加算制度も令和6年度から県が新たに補助を始めたことにより、制度を導入した市町村が5市から対象の全25市町村となり、県内就職率も5.5ポイント増えています。高校授業料の実質無償化は、国の支援もあり、令和7年4月から所得の高い世帯への支援も拡充されました。

産業や観光の分野でも良い兆しが出ています。令和6年の県内への新規の工場立地件数は46件で前年比18件の増加。全国順位も11位から6位に上昇しました。また、万博を訪れた外国人が万博と併せて訪問した場所で最も多かったのは、奈良公園がUSJ、大阪城、清水寺をおさえての堂々のトップでした。

### 県民が安心して暮らせる社会の実現を目指して

奈良県生活協同組合連合会におかれまして

は、県内生活協同組合の要として、各組合との連携調整やご指導に多大なご尽力をいただいております。また、食の安全・安心、福祉、環境エネルギー、消費者問題など、県民生活に直結する幅広い課題に、“協働と連帯”の精神のもと積極的に取り組まれていることに深く敬意を表します。

とりわけ、地域に根ざし、誰もが支え合いながら暮らせる地域共生社会の実現に向けた取り組みを着実に進めてこられていることは、県民の生活の安定と安心の確保に大きく寄与しているものと実感しております。地域づくりにも主体的に参画いただいていることに、心より感謝申し上げます。

今後とも、県民の安全・安心な暮らしの実現に向け、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 無限の可能性を引き出すために

知事就任以来、奈良県が持つ限りない可能性を最大限に引き出し、県民の皆さまに暮らしの豊かさを実感していただくための取り組みを続けてきました。皆さまのご理解とご支援により、少しはその成果が出てきたのかもしれませんが、しかし、少子高齢化、過疎化と東京一極集中、人と人との繋がりの希薄化、地球温暖化など、現代の日本が直面する問題は深刻になる一方だと言わざるを得ません。引き続き、県職員と一丸となって粘り強い努力を続けてまいりますので、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

今年が奈良県と貴連合会並びに会員生協の皆さまにとって、素晴らしい年となることを、心より願っています。



## 第35回奈良県生協大会を開催しました。

IYC2025 協同組合の強み

## ～笑顔あふれる地域共生社会づくり～

12月13日、奈良商工会議所大ホールにて「第35回生協大会」を開催しました。国際協同組合年2025の今年「地域共生社会づくり」をテーマに、元日本協同組合学会会長で長野県高齢者生協副理事長の田中夏子さんをお招きし、講演とリレートークを行いました。協同組合の使命と価値を見つめ直すとともに、人材育成を進めながら組織力の向上を目指すことを、参加者70名と共有しました。ご来賓として奈良県地域創造部県民くらし課 染川幸史課長、奈良県農業協同組合中央会 村本佳宜代表理事・会長、奈良森林組合連合会 西本隆晃参事にご挨拶いただきました。



## 基調講演



## 安心と尊厳をもって暮らし続けられる

地域社会づくりのために～ 協同組合ができること 田中 夏子さん



私は生活協同組合の組合員であると同時に、長野県で高齢者生活協同組合の運営に関わっています。私たちがめざしているのは、誰もが住み慣れた地域で、尊厳をもって暮らし続けられる社会です。介護や生活支援、配食事業などを行っていますが、大切にしているのは、サービスを提供することそのものではなく、日常の中で互いを「気かけ合う関係」を育てていくことです。配食事業も、単に食事を届けるだけではありません。声をかけ、表情を見て、変化に気づく。そうした一つひとつの関わりが、支え合いの土台になります。また、組合員活動においても、無理に深く関わることを求めるのではなく、できる人が、できる形で関わる「弱い関係」を重ねていくことが、これからの協同組合には必要だと考えています。

「気かけ合う」とは、すぐに行動できなくても、立ち止まり、思いを寄せることです。その積み重ねが、人の行動を変え、関係を育て、地域を支える力になります。

2025年は国際協同組合年（IYC2025）です。国連は、協同組合を、社会的に排除されがちな人々を包摂し、持続可能な社会をつくる主体として位置づけています。組合員のためだけでなく、地域全体、一人ひとりが自分のペースで関わり、気かけ合う。その積み重ねこそが、地域を支え、社会を変えていく力になるのだと、私は考えています。

## リレー報告



## JAならけん女性部の活動について

JAならけん女性部部長 木下 博美さん



私たちJAなら女性部は、助けあいや趣味・健康づくり、環境保全など、地域に根ざした活動に取り組んでいます。45歳までの若い世代「フレッシュミズ」も含め、世代を超えた交流を大切にしています。県下6地区が連携し、安心・安全な食を守りつつ、「助け合い・学び合い・育て合い」を柱に、フードドライブや環境保全など地域を支える活動を続けています。

## WINDYの活動について

奈良女子大学生協 谷垣 晴香さん  
奈良女子大学文学部3回生 山田 奏美さん

私が奈良女子大学生協と学生委員会 WINDYを知ったのは、受験生の時に参加したオープンキャンパスでした。先輩方のいきいきとした姿に憧れ、入学後にWINDYへ入部しました。活動を通して、自分たちの企画で組合員の方に喜んでもらえることにやりがいを感じ、3年間続けることができました。WINDYでの経験は、人と関わり、誰かの役に立つ喜びを実感できる大切な時間でした。（山田さん）

\* アンケート \*

今回の報告を通して、それぞれの協同組合への理解が深まり、連携や協力の大切さを改めて感じました。また、田中先生の基調講演では、「気かけ合う」という言葉の大切さを学び、こうした思いが将来の持続可能な社会づくりにつながることを実感しました。

・若い皆さんの発言に希望を感じる事ができました。継承することを、意味をもってする！大事な事だと思いました。

・私も遅ればせながら一歩踏み出せると思ったピースアクションでした。

令和7年度 奈良女子大学全学共通学科目  
キャリア・デザイン・ゼミナール 奈良県生協連寄付講座

# 五感で学ぶ「協同組合」 in 奈良

奈良県生協連は今年、奈良女子大学で初めて寄付講座を開講しました。この講座は奈良女子大学のキャリア・デザイン・ゼミナールとして3回実施し、学生が将来の働き方や生き方を考えるうえで大切な、地域社会で支え合う「協同」の視点を学べる内容としています。講座では、協同組合の理念や社会的役割、県内の生協・農協・協同福祉会が取り組む「食・農」「福祉」「環境」などの地域課題を紹介するとともに、実際の現場を訪問する学びの機会も設けました。若い世代が協同の価値を知り、協同組合を身近に感じながら、自分らしいキャリアを描ききっかけとなることを期待しています。第2回講座(11月23日)では、「食・農・学び」をテーマに、ならコープの農場や店舗を訪問し、地域とつながる協同の現場に触れました。

## ならコープ コープの農場の取り組み



### コープの農場 杉田 貴志氏

ならコープでは、食料自給率の低い奈良県の課題に向き合い、「地域に必要とされる生協」として耕作放棄地を再生したコープの農場での白菜栽培や地産地消の取り組みを進めています。また、農業への参入を通じて地域の多様な課題に寄り添い、旧阿太小学校を活用して、障害者就労支援や不登校児童への学習支援、多世代が集える交流の場づくりなど「農・福祉・教育」がつながる、誰も取り残さない地域づくりをめざしています。また、農場を職員や組合員の学びの場とし、大学生協へフードパントリーとして白菜やさつまいもなどを支援し地域との協同も広がっています。コープの農場は、食の安心と地域共生社会の実現に向けて、これからも地域とともに歩み続けます。これからも温かく見守り、応援いただければ幸いです。



奈良女子大学出発後ならコープの産直の取り組みなどを聴きながら旧阿太小学校集会室

に到着、ならコープ「コープの農場」の取り組みをお聞きました。

### 奈良県生協連寄付講座 キャリア・デザイン・ゼミナール

第1回		オンデマンドゼミナール	
第2回	11/23 (日)	食・農	コープの農場 コープなんごう
第3回	11/30 (日)	農を守る 福祉	JAまほろばキッチン 協同福祉会

11/23(日)	内 容
9:00	奈良女子大学講堂前出発
10:20	コープの農場・白菜収穫体験・施設見学他
13:00	コープなんごう到着/昼食
14:00	ならコープの取り組み・ コープなんごうの取り組み・ コープなんごう店舗施設見学

## 白菜の収穫体験



たくさん  
収穫出来  
ました

## コープなんごうの取り組み



### コープなんごう 店長 山上 真生氏

2016年の開店以来、組合員の声や要望に応じて広い売場と幅広い世代に応える品揃えを強みに、単身世帯や高齢者にも買いやすい売場づくりを進めてきました。購入頻度の高い青果・鮮魚・牛乳を効果的に配置するなど、店内の買い物導線を工夫し、回遊しやすいレイアウトを実現しています。また、高知県の生産者を招いた「炭焼きカツオのたたき」実演販売や「ゆっくりレジ」の導入、高田支所・コープの農場との連携など地域との協同も進みました。今年度は新たに「30分試食会」を開始し、組合員活動グループとの試食会など、交流の機会づくりにも取り組んでいます。さらに、店内衛生の定期点検を行い、安全・安心の向上にも努めています。

### 店内・バックヤードの見学



山上店長による案内と質疑応答で講座は締めくくられました。農場での体験や店舗見学を通じて、学生たちは教室では得られない協同組合の価値や地域とのつながりを知ることができました。今回の学びが、今後の学習やキャリア形成へとつながっていくことを期待しています。



ピースアクションinなら2025（きょうされん第48回全国大会in奈良 共同企画）

# 被爆・戦後80年 障害のある人と戦争を考える ～人権と平和が花ひらく未来をひきよせるために～

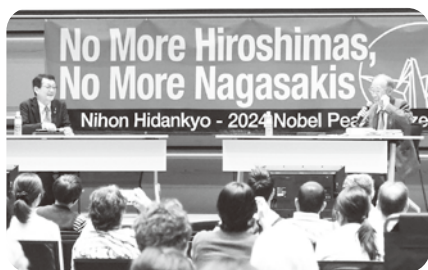
ピースアクションinなら2025は、10月17日奈良県コンベンションセンター コンベンションホールにおいて、「被爆・戦後80年障害のある人と戦争を考える～人権と平和が花ひらく未来をひきよせるために～」をテーマとして開催しました。昨年、きょうされん第48回全国大会が奈良で開催されることが決まり、当連合会と連携・協力しながら支援について協議を進めてきました。その過程で、戦争によって障害のある人たちは不利で過酷な境遇に置かれ、非常につらい状況に追い込まれた歴史を改めて共有しました。平和への願いは共通であり、権利侵害がなく、誰もが人間らしく自由に豊かに生きられる社会をめざして、共同企画の準備をすすめてきました。

2025年は、被爆・戦後80年節目の年にあたります。私たちは「被爆者が悩み苦しみながら続けてこられた取り組みの思いを学びたい」と、日本被団協に講演をお願いするため1月に表敬訪問し、登壇の方向で調整いただけることになりました。

後日、関係者による事前打ち合わせのなかで、日本被団協の濱住 治郎事務局長に基調講演いただくこととなりました。濱住事務局長から「奈良での活動は、学び・つなぐ取り組みが積み重ねられており、被爆者がいずれいなくなることを考えると、生協の継承活動（平和ライブラリー、奈良県のヒバクシャの声手記集ほか）は、非常に貴重である。このたび奈良で開催することは大きな意義がある。」とのメッセージをいただきました。

基調講演の中で濱住事務局長はノーベル平和委員会フリードネス委員長の発言として、「被爆者の証言が核のタブーを形成し、80年間、核兵器が使われてこなかった。しかし今、その核のタブーが圧力にさらされている。核兵器は人類にとって、かつてなく破壊的な兵器である。記憶こそが最も重要であり、歴史の過ちを避けることにつながる。記憶を紡ぎ、より良い未来へつないでいくことが大切である」と紹介されました。さらに、「原爆は悪魔の兵器である」「原爆投下から11年間、被爆者は放置されてきた」「まだ戦争は終わっていない。再び被爆者をつくらせない。命をかけて訴えていく」という強いメッセージが発信され、参加者全員がその言葉を真摯に受け止めました。

その後、きょうされん 藤井 克徳専務理事とのトークセッションで、課題を掘り下げました。続いてシンポジウムでは、ピースアクションをすすめる会 中野 素子さん、きょうされん 広島県支部 秋保 喜美子さん、長崎支部 緒方 晴さんが障害者の立場から登壇し、きょうされん 斎藤 なを子理事長のファシリテートでそれぞれの思いを語りました。



障害当事者のお二人からは、すべての人たちの尊厳と人権が守られ、自分らしく生きられる平和な社会への願いが力強く語られました。また、中野 素子さんからは、「平和とよりよい生活のために」を生協運動の原点、根っこに据え、ノーモア・ヒバクシャの志に思いをはせ、自分事として考え、次世代への継承を大切にしていこうことなど、今後に向けての思いが語られました。

私たちは、歴史の中継者としての責任を自覚し、一人ひとりが平和を守る主体者としての意思を持つことが求められています。そのためには、学び続けること、そして記憶を継承するための努力が欠かせないことも改めて学びました。すべての人の尊厳と人権が守られ、誰もが自分らしく生きられる平和な社会をめざして、これからも取り組みを続けていきたいと思ひます。



## ピースアクション in なら2025

## 『被爆の継承と未来へのつながり』

## ～ 私たちにできること～

## を開催しました

12月6日に、ピースアクション in なら2025「被爆の継承と未来へのつながり～私たちにできること～」を開催しました。第1部は奈良市在住の秋山勝彦さんの被爆体験の講演。第2部では「未来へのトークセッション」として立命館大学4年生の倉本芽美さん(KNOW NUKES TOKYO 共同代表)をファシリテーターに、秋山勝彦さん、ピースアクションをすすめる会の重村とみさん(コープ自然派奈良理事)、奈良女子大生協学生委員の水谷佳那さん、内木ねねさんに、「平和な未来に向けて私たちにできること」をテーマにそれぞれ語っていただきました。会場いっぱいの81名が参加しました。

秋山さんは、5歳8ヵ月の時、母と小学2年の姉、生後8ヵ月の弟と、広島市の爆心地から2キロの自宅で被爆。玄関から部屋越えて奥の部屋まで吹き飛ばされた。すぐに母に手を引かれはだしのまま逃げて、その時の傷で走れなくなり、小学校でいじめられ、それから50年間被爆のことは話さなかった。本当は話したくないが25年前から話し始め、毎年小学校などで話している。原爆投下後のまちではあちこちからソラマメをフライパンで焦がして焦がして焼いたような強烈なおいがした。このにおいが大きらいだった。

秋山さんは、逃げながら見た被爆した広島街の様子・惨状を話され、逃げた双葉山で休んでいる時、横にいた真っ黒な人が「水をください」言ったので、母がやかんの蓋で水をあげると、かえてきた蓋におじさんの皮膚がはがれてベローンとついていたのが衝撃的だった。

大学生の時見学した広島市の比治山にあるABCC(原爆傷害調査委員会)で、亡くなった被爆者の内臓などが入った6千個の瓶や原爆の投下の影響調査など、被爆者を実験台のように扱い自慢げに説明する日本人医師に「それでも人間か」と怒りを抑えきれなかった。

秋山さんは最後に「理屈ではなく、核兵器は人間をぐちゃぐちゃにする。それを感じてほしい。戦争はダメ、核兵器はダメ」と強調されました。



講師の秋山さん

第2部では、被爆者の生の声を聞いて、若い世代の思いや考えを参加者皆で共有すること、記憶の継承とその継承方法について一緒に考えることを狙いとして、「記憶の継承、自分事として」をキーワードにトークセッションが行われました。

自己紹介を兼ねてそれぞれの活動報告、秋山さんの話をきいた感想、記憶とは何か、記憶と記録の意味と重要性、継承とは何か、何を継承するのか、自分にとって平和とは何かなどそれぞれの思いが話されました。

## 参加者からは、次のような感想が寄せられました。

私も遅ればせながら一歩踏み出せると思ったピースアクションでした

原爆の被害・影響をきちんと知ろうとすることが、核兵器、戦争をなくしていくために重要と思った

リアルなお話を伺うことの大切さ、五感での想像がいかに大切かを感じた

話したくないと何度もおっしゃっていたことが強く心に残りました

5歳の秋山さんの目線であの日感じたこと、見たものをストレートに、でも決して重苦しくなく伝えてくださってとても印象に残りました

若い世代の方々が正面から平和の問題に向き合って行動されていることは大切でつながっていければと思った

若い皆さんの発言に希望を感じる事ができました。継承することを意味をもってする！大事な事だと思いました

記憶を残すこと、記録に残すことを改めて考えました。若い人からたくさん学ばせてもらいました

記録と記憶の違いについての考察は面白いと思いました

なお会場で、長崎のろうあ被爆者の日常を記録した写真「ピカドンのドンが聞こえなかった人々」

(撮影：奈良県出身の写真家 豆塚猛さん)を展示しました。



# 関西消費者団体連絡懇談会の定期懇談会

関西消費者団体連絡懇談会は、全大阪消団連が世話人代表となり、コンシューマーズ京都、安全食品連絡会、滋賀県生協連、奈良県生協連の5団体で構成されています。毎年大阪ガス、関西電力との懇談会を重ねてきました。懇談会の歴史は古く、電気料金の値上げ問題や不祥事問題に対しても消費者として意見表明してきました。

## 大阪ガス

11月14日、淀屋橋にある大阪ガス本社南館8階ガスビル食堂会議室で、懇談会が開催されました。Daigasグループからは、大阪ガスマーケティング(株)の森崎健志代表取締役社長ほか9名、関西消費者団体連絡懇談会からは近畿圏の生協連や消費者団体など12名が出席しました。奈良県生協連から2名が出席しました。春から夏にかけて検討を重ねた質問書を提出し、9月に回答をいただき、さらに追加質問をして懇談会に望みました。初めに「Daigasグループによるエネルギーランディション2025の取り組み」について説明がありました。再生可能エネルギー由来の水素の調達や回収したCO<sub>2</sub>利用の技術の進捗状況、コストや気候危機に間に合うのかなどの質疑がだされ、回答がありました。メガソーラー開発への関与や風力発電の進捗、地元住民の声や、お客様目線の大切さについての意見が出され、誠実にご回答いただきました。



## 関西電力 電気事業経営問題懇談会

12月5日、中之島にある関電会館5号会議室で、関西電力との定例の電気事業経営問題懇談会が開催されました。関西電力からソリューション本部井内副本部長はじめ原子力事業本部やエネルギー・環境企画室、ソリューション本部企画部門、コンプラ推進本部、人材・安心推進室D&I推進・人材開発G、再生エネルギー部門や蓄電池事業などの方16名が出席されました。関西消費者団体連絡懇談会から10名が出席し、奈良県生協連からは2名が出席しました。

①電気料金問題 ②ガバナンス問題 ③再エネ・蓄電・火力問題 ④原発問題の4つのテーマに分け、質問と意見交換しました。関西電力の電源構成も変わり利益が上がり、規制料金の値下げをされていた頃の要件がそろっている。消費者は物価高騰で生活が大変厳しいので他社との料金比較ではなく電気料金を下げる検討をしてほしいと要望を伝えました。また金品授受問題以降、相次ぐ不祥事で始まったコンプライアンス問題からの信頼回復のための改革を進めている中で再度のグループ会社の不祥事が発覚し、再度改革の内容を問い直しました。D&I推進・人材開発については、役員の女性比率の低さや女性や若い職員の定着のための制度について意見交換しました。エネルギー安全保障の視点から再生可能エネルギー開発や蓄電所の計画について、さらに美浜原発敷地内の後継機の安全性や経済性、放射性廃棄物の処理問題についても意見交換しました。エネルギー政策は国の政策であり、消費者である懇談会メンバーとはいつもながら平行線のままでしたが、誠実に回答をしていただけました。今後も消費者の声を聞く場である懇談会を継続していただきたいと要望を伝えました。





# 2025年「能登被災地支援」サロン活動



令和6年能登半島地震の発災から約2年、そしてそれに続く奥能登豪雨災害からもおよそ1年4か月が経過いたしました。この長い時間が経過した今もなお、被災地の復旧・復興は道半ばであり、関連災害死は止むことなく続き、600名を超えるかけがえのない尊い命が失われています。

奈良県生協連およびならコープは、被災された方々の「暮らし」と「ところ」を支えることを目的に、昨年より大阪府生協連からの力強い呼びかけに賛同し、輪島市を中心に継続的な支援活動を行っています。

私たちの活動は、被災地域の仮設住宅、集会所、公民館などを巡回し、たこ焼きの炊き出しを実施しています。また、住民の皆さまとの温かい対話や交流の場を持つことに重点を置いています。今回は9月、10月、11月と3回実施した現地支援活動のうち10月の取り組みについてご紹介いたします。

能登被災地支援～サロン活動参加者（合計28人）

	ならコープ 職員・組合員	奈良女子大学 生協	奈良教育大学 生協	県連
9月	4	1		2
10月	7		2	1
11月	3	4	3	1

## 10月18日・土曜日 場所：金蔵集会所（石川県輪島市町野町金蔵）

### 活動内容：たこ焼きの炊き出し・ビンゴ大会

たこ焼きの炊き出しを実施し、108食を提供いたしました。当日は降雨の影響で来場者の減少が懸念されましたが、仮設住宅にお住まいの同地区の方々へ確実に温かい食事を届けるため、おひとりで22食分を代表して受け取りに来られる方がおられるなど、地域の連携の強さを実感しました。ビンゴ大会では、ならコープの組合員から寄せられた雑貨品（キッチン用品）や活動者から寄付いただいた品（ぬいぐるみ等）を景品とし、大きな盛り上がりを見せました。初めてビンゴを体験される方も、和やかな雰囲気の中で心から楽しんでいただけた様子で、参加者の笑顔が印象的な一日となりました。

## 10月19日・日曜日 場所：南志見公民館（石川県輪島市里町）

### 活動内容：大規模防災訓練と連携した炊き出し・サロン活動

たこ焼きの炊き出しを実施し、前日を大きく上回る192食を提供いたしました。この日は輪島市総合防災訓練が開催されており、多くの方が公民館にお集まりになっていました。訓練の機会を活かし、公民館でのサロン活動を展開することで、地域全体への支援の輪を拡大することができました。ビンゴ大会は前日に引き続き大いににぎわいました。参加者の皆さまが自ら場を盛り上げてくださり、終始和気あいあいとした、温かな雰囲気の中で活動を終えることができました。「美味しいたこ焼きをいただき、久しぶりに出会えた方々や学生さんの笑顔に心が明るくなり、明日からの勇気が湧いてきました。ありがとうございます」といった声が寄せられ、世代を超えた交流や、真剣に活動する姿への感謝の思いが伝わってきました。また、支援に参加した学生にとっても、被災地の方々の笑顔に触れ、人とのつながりの大切さを実感する、意義深い学びの機会となりました。

活動時間には限りがあり、被災された方々一人ひとりのことを深く知るのには簡単ではありませんでした。被災された方々と楽しく交流し、心から喜んでいただけたことはかけがえのない経験となりました。

今回の活動で得た経験をもとに、これからも継続してこのような支援活動に参加していきたいと思えます。被災地の方々の気持ちにそっと寄り添い、少しでも力になれるように、今後も努力を続けていきたいと強く感じています。



参加者と記念撮影



ビンゴ景品獲得者と  
記念撮影

# 2025年度 第2回 生協・行政協議会

11月13日奈良女子大学 学生会館にて、2025年度第2回生協・行政協議会を開催しました。奈良県地域創造部 県民くらし課から染川幸史課長をはじめ4名のご出席があり、奈良県生協連役員との懇談を行いました。奈良県生協連は10月に「2026年度県政への要望書」を提出しており、はじめに県から要望項目への回答について説明され、それをもとに意見交換を行いました。県からは消費者基本計画、防災連携、住宅支援、地域福祉、大学生支援など各要望への回答があり、生協からは農業課題、防災、若者の消費者教育、地域協働の強化などについて発言がありました。今後も行政と生協が協力し、くらしの安心づくりを進めていくこと等意見交換しました。



## 1. 気候変動と食料安全保障

猛暑で農業被害が拡大し、奈良県の自給率も低いままです。米不足を踏まえ、高温に強い品種開発と増産体制、スマート農業など農業支援の強化を要望します。

## 2. 高齢者支援と地域づくり

孤立防止・地域包括ケアの充実、県社協と生協の連携強化。



## 3. 消費者被害防止

消費者行政の強化、若者への消費者教育、適格消費者団体との連携。



## 4. 防災力強化と能登支援

能登地震の経験から、多様な主体が連携できる防災体制の強化が必要です。紀伊半島大水害の教訓を活かし、緊急物資協定による迅速な支援体制の充実と、被災地への長期的な支援を要望します。

## 5. 協同組合の設立支援

国連が定める「国際協同組合年（IYC 2025）」を契機に、協同組合への理解促進とSDGsへの貢献が期待されます。県内未設立の生協設立に向けた県の支援を要望します。

## 6. 断熱と健康な住環境

森林育成と県産材利用の拡大、公共施設の断熱施工の推進を要望します。また、「ひと部屋断熱」の普及に向け、関連会議への支援強化を求めます。

# 令和7年度 奈良県内東和エリア 合同災害ボランティアセンター設置・運営訓練



災害VCの設営・運営会議

南海トラフ地震などの大規模災害発生時において、被災自治体単独では対応が困難となることが予想されます。この課題に対応するため、奈良県では令和7年度から3年間をかけ、市町村間で協力できる災害支援ネットワークの構築を目指します。このネットワークは、災害ボランティアセンター（災害VC）をその軸とし、災害時の円滑な相互支援を実現することを目的としています。この新たなネットワーク構築に向けた第一歩として11月26日・27日に桜井市・宇陀市・奈良県の社会福祉協議会が主催で奈良県東和エリアでの関係機関が一堂に会する広域連携訓練が実施されました。宇陀市総合体育館で行われた訓練に奈良県生協連も参加しました。訓練では、仮想された災害状況に基づき、ネットワークの核となる災害VCの立ち上げと運営に関わる実践的な作業に焦点が当てられました。災害VCの設営・運営会議では災害VCの初期設営手順を確認しました。関係機関が連携し、迅速なセンター立ち上げに向けた情報共有と役割分担の会議を実施しました。情報共有・連携訓練では被災状況、ボランティアニーズ、活動に必要な資材・人員などの情報を、参加機関間でリアルタイムに共有する訓練を行いました。この広域連携訓練は、大規模災害時に機能する「顔の見える関係」を構築し、災害VCを中心とした相互支援体制を具体化する上で極めて重要な機会となりました。

ネットワークの核となる災害VCの立ち上げと運営に関わる実践的な作業に焦点が当てられました。災害VCの設営・運営会議では災害VCの初期設営手順を確認しました。関係機関が連携し、迅速なセンター立ち上げに向けた情報共有と役割分担の会議を実施しました。情報共有・連携訓練では被災状況、ボランティアニーズ、活動に必要な資材・人員などの情報を、参加機関間でリアルタイムに共有する訓練を行いました。この広域連携訓練は、大規模災害時に機能する「顔の見える関係」を構築し、災害VCを中心とした相互支援体制を具体化する上で極めて重要な機会となりました。



# // おじゃましました // \* もったいないNARAの巻 \* もったいない NARA 学習会



「もったいないNARA」さんは、「誰一人取り残さない地域づくり」「将来世代に引継ぎうる社会づくり」「だれもが地域でその人らしく暮らすことができる社会づくり」をすすめるために、2023年夏から、奈良県内全域を視野に、フードバンク活動を開始されています。主にならコープから寄託された食品等を奈良県内の他のフードバンク団体（2025年10月現在6団体、フードバンク奈良、フードバンク大和郡山、おてらおやつクラブ、フードバンク天理、フードバンクエンジェル、フードバンク大和高田）や福祉団体や市町村社協に配布する活動を中心に実施されています。また、クイズなどを使った食品ロス削減の啓発活動も、イベント出展などを通じて実施されています。

フードバンクの活動には、食品の賞味期限の確認や保管・整理作業は重要な活動です。ならコープフードドライブサポーターさんが受けつけてくださったフードドライブ品がどのように必要とされる方に届けられるのか、そして食品の包材と賞味期限について知るための学習会が、コープふれあいセンター六条で11月19日に開催されるとお聞きし、取材させていただきました。スタッフ含め16名が参加されていました。

加工食品により、保存性が向上し、調理時間が短縮し、味や見た目もよくなり、栄養価の調整もできるようになり、利便性が大変向上しました。おいしさを保つためにそれぞれの食品に適した包材の改良が行われ、おいしく、賞味期限も長くなっていることを知りました。消費期限と賞味期限の違いや、食品劣化の要因を知り、食品ロスを防ぐことができる事を知りました。

## ● 学習会内容 ●

- ・「もったいないNARA」について 代表 矢藤加寿子さん
- ・「加工食品と軟包装材に関するちょっと知っておきたいこと」もったいないNARAメンバー（元包装業界） 稲葉一彦さん
- ・もったいないNARA作業倉庫見学
- ・意見交換



会場の様子



もったいないNARA代表 矢藤さん



包装材のお話 稲葉一彦さん



倉庫・作業場 見学

## 参加者の感想

（もったいないNARAが集計したアンケート結果から抜粋）

普段何気なく手にしている包装材ですが、こんなにも奥が深いとは知りませんでした。企業や研究者の努力で我々がいかに便利で安全な食生活を送っているのかよく分かりました。

知らなかったことがたくさんあり、とても有意義でした。

品物がどんなルートでどんなところに行っているのかよく分かりました。



## 10月

- 5日(日) フェスティバル2025  
JAならけん出展
- 11日(土) 日本被団協10.11被爆・戦後  
80年企画
- 17日(金) ピースアクションinなら2025  
(きょうされん第48回全国  
大会共同企画)
- 18日(土)・19日(日) 能登支援サロン活動
- 20日(月) 県社協・ならコープ・県連  
包括協議
- 24日(金) もったいないNARA協議、  
奈良こども食堂ネットワーク  
世話役会議
- 27日(月) 吉野共生プロジェクト推進  
委員会
- 29日(水)・30日(木) 日本生協連・地域共  
創ジャンボリー
- 30日(木) 奈良県農村活性化推進  
委員会



## 11月

- 4日(火) 奈良県食と農の振興会議
- 5日(水) 2025年度上期監事監査、  
奈良防災プラットフォーム  
連絡会検討会議
- 7日(金) 近畿地区生協府県連協議会(京都)
- 8日(土)・9日(日) 能登半島被災地支援  
サロン活動
- 10日(月) 県社協・ならコープ・県連  
包括協議
- 11日(火) 憲法学習会実行委員会
- 13日(木) 第2回生協・行政協議会、  
第4回理事会
- 14日(金) 関消懇・大阪ガス懇談会、  
全岐阜50周年記念式典参加
- 15日(土) 奈良県の被爆者の声手記集  
編集委員会
- 17日(月) ピースアクションをすすめる会
- 20日(木)・21日(金) 神奈川県生協連・  
役員視察研修
- 23日(日) 寄付講座キャリアデザイン  
ゼミナール(コープの農場、  
コープなんごう)
- 24日(月) 吉野共生プロジェクト推進  
委員会
- 26日(水) 東南和広域災害ネットワーク  
シミュレーション訓練
- 27日(木) 関西地連運営委員会・県連  
活動交流会、なら消費者  
ねっと理事会

- 29日(金) 命を守るひと部屋断熱セ  
ミナーin奈良
- 30日(日) 寄付講座キャリアデザイン  
ゼミナール(JAまほろば  
キッチン、協同福祉会)

## 12月

- 5日(金) 関消懇・関電経営問題懇談会
- 6日(土) ピースアクションinなら2025  
(特別企画Ⅱ)
- 10日(水) 奈良県社会福祉大会
- 11日(木) 大阪府生協連被災地支援  
会議
- 12日(金) 奈良県災害フォーラム打合  
せ協議
- 13日(土) 第35回奈良県生協大会
- 15日(月) 奈良子ども食堂ネットワーク  
・JA米配布
- 17日(水) 関消懇・日化協訪問
- 18日(木) 県社協・地域における社会  
参加検討会
- 19日(金) コープ住宅(株)訪問、奈良防  
災プラットフォーム連絡会  
検討会議、被爆・戦後80年  
活動報告交流会
- 22日(月) 県社協・ならコープ・県連  
包括協議
- 25日(木) なら消費者ねっと理事会

## 編集後記

ピースアクション「あなたにとって平和」とは…「寝るときに明日の朝起きることに不安がないこと」、「周りからの共感・賛同の「うーん」が耳に残っています。(武)

「ヤバ杉謙信」「やばたにえん」…ネオダジャレが若者の中で流行っている。3ヵ月以内に「ダジャレを聞いたことや使ったことがある」と回答した人は、若い年代ほど多いという。SNSが浸透し、テキストのみのコミュニケーションが増えた影響だとか。(和)

息子夫婦から見える子育てと仕事の両立の高いハードル。子どもはよく熱を出す。そのたびに保育園には行けず、在宅勤務で、夫婦でやりくりするが、ママは仕事で遠方出張が多い。私は出向いて病児保育。子どもがいても様々な問題を抱えてもみんなが働きやすい社会にしなければね。(順)

中学1年生になる息子が反抗期に突入いたしました。まだ可愛げがあるものですが、いつまで笑顔で対応できるか心配な今日この頃です。(幸)

昨年後半は、気づけば予定に追われるうちに過ぎていきました。今年に行きたいところに行き、食べたいものを食べ、会いたい人に会う。そんな小さな贅沢を大切に一年にしたいなあ。(佳)